

『SHIBUYA PIXEL ART RECONNECT』が、9月21日（水）から渋谷ヒカリエで開幕!!
1次審査を通過した受賞ノミネート者と特別審査員など、総勢55名のピクセルアートが一堂に集結!
開催にあわせて、ピクセルアートで初めてのウェブマガジン『The PIXEL MAGAZINE』も創刊!

イベント会期：2022年9月21日(水)～9月28日(水)
ウェブマガジン創刊：2022年9月15日（木）

シブヤピクセルアート実行委員会は、立ち上げから6年目となるピクセルアートの祭典『SHIBUYA PIXEL ART RECONNECT（以下、本イベント）』を9月21（水）日～9月28日（水）の8日間、渋谷ヒカリエ 8/ CUBE & COURTにて開催いたします。



Pixelart by Eiki Okuda

シブヤピクセルアートは、1990年代のITバブルの時代から「ビットバレー」と呼ばれる渋谷を舞台に毎年開催される世界最大級のピクセルアートの祭典です。最大の特徴は、国籍・年齢・性別・プロアマ問わず、誰もがTwitterやInstagramを通じて気軽に参加できるコンテストと、渋谷という街を舞台にしたピクセルアートの展示 & 交流イベントです。（<https://pixel-art.jp/>）

今年は、「Reconnect～世界と再びつながる」をテーマに掲げ、コロナ禍の2度の開催を経て確信した「ピクセルアートという表現が持つ力（引力）」に着目し、ピクセルアート・コミュニティの中心的存在として、国内外の多くのアーティストやファンが参加し、繋がることのできるイベントを企画・開催いたします。

本イベントでは、2022年6月1日～7月31日に開催されたピクセルアートコンテストで、#shibuyapixelart2022で応募された作品603点の中から1次審査を通過した45名50作品が、2022年9月21日～9月28日に渋谷ヒカリエ 8階 8/ CUBEにて受賞ノミネート作品として展示されます。また、コンテストの結果は、9月25日の表彰式にて発表されます。表彰式の風景は、YouTubeにて生配信される予定となっています。（<https://www.youtube.com/watch?v=ssR9VIZg54s>）

加えて、今回はドイツ・ロシア・カナダ・中国・韓国など世界中から招致された特別審査員12名のうち、8名が参加する「審査員特別展示」も同会場にて開催されます。参加者には、FoundationやRaribleといったNFTプラットフォームで人気を博し、「Nouns」というNFTアートプロジェクトにも参加するピクセルアート界のレジェンドeBoy、世界中に20万人以上のフォロワーを持ち日本でも多くのファンを持つピクセルアーティストwaneella氏、昨年の「ピクセルアートコンテスト」で最優秀賞を受賞したNelson Wu氏など、ピクセルアートの第一線で活躍する面々が参加しています。これらの作品は、渋谷ヒカリエ 1階のショーウィンドウ、2階の巨大サイネージでも展開され、一部の作品はNFTでも発売されます。

さらに、本イベントに先駆けて9月18日～9月30日の期間中、adidas Originals Flagship Store Harajukuで、ファミコン（NES）というメディア表現でアート作品を発表する奥田栄希氏による展示も行われます。企画、プログラミング、基盤のハンダ付けまで、1から制作・パッケージ化されたファミコンをプラン感テレビで遊べるほか、店内には、adidas Originalsの名作シューズ188種のドット絵を展開。店内のカスタムプリントサービス「MakerLab」では、奥田栄希氏のドット絵をTシャツにプリントしてあなただけの1着を作成できます。

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野
TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■『The PIXEL MAGAZINE』創刊にあたり



シブヤピクセルアート実行委員会は、本イベントの開催にあわせ、現代のピクセルアートの芸術的な価値を高め、その価値を広く浸透させていくウェブマガジン『The PIXEL MAGAZINE（以下、本ウェブマガジン）』を創刊します。（<https://thepixel-mag.jp/>）

ピクセルアートの第一線で活躍するアーティストへのインタビューなど、日本のアート市場や世界のNFT市場で取り零されがちな制作意図や背景を浮き彫りにし、アーティスト自身の魅力に迫る記事を用意しています。その他、ピクセルアートに関連した展示会や現代を彩るピクセルアーティスト一覧など、ピクセルアートファンに向けたポータルサイトとして情報を取り揃え、読み応えのあるコンテンツを継続的に発信していきます。

さらに、10月にはピクセルアートの用語集として「Dictionary」機能を追加し、ピクセルアート初心者でも専門用語に溺れず、理解しやすい読み物として整備していきます。将来的には、第二言語として英語表示を追加し、より多くのファンにピクセルアートの魅力を発信していければと考えています。

■『SHIBUYA PIXEL ART RECONNECT』開催にあたり

『Reconnet: To the New World』

「ピクセルアート」には、二つの「引力」が存在する。一つは、ドットを「打つ」という行為そのものがもつ「引力」。時に、ドッターの精神を落ち着かせ、作家同士を引き寄せあう不思議な力を持つ。もう一つは、低解像度のイメージが持つ「引力」。あらゆるものが高精細な時代だからこそ、細部が抽象化されたイメージが頭の中で反復再生され、受け手がその余白にそれぞれの文脈を入れ込むことで、その「引力」は増幅される。そして、そこそが新しい世界へと誘う「ピクセルアート」の魔力と言えよう。

シブヤピクセルアートコンテストは、この神秘的な魔力をソーシャルメディア上で作用させる唯一無二のコンテストである。今年は、2022年6月1日～7月31日に開催され、#shibuyapixelart2022で世界中から応募された作品は603点にも上る。本展示では、その中からスクリーニングと特別審査員12名の厳しい1次審査を通過した45名50作品が、受賞ノミネート作品として展示され、9月25日の表彰式にて受賞作品が発表される。

さらに、今回は特別審査員12名のうち8名が参加する「審査員特別展示」も同時に開催している。いずれも、全く異なる世代や国籍、バックグラウンドや美学を持つアーティストによる作品がこの会場に一堂に並ぶわけだが、審査する側も、審査される側も、最後は「引力」の赴くままに呼応し、交差するだろう。

シブヤピクセルアートの最大の魅力は、多様性を許容する「渋谷」という街らしく、自らがゲームの主役となりコンテストに参加し、他者と関わり影響し合うことで、本来の自分を取り戻し、新しい希望や物語を見つける場所に他ならない。

シブヤピクセルアート実行委員会
坂口元邦

■『SHIBUYA PIXEL ART RECONNECT』開催概要

【開催概要】

「SHIBUYA PIXEL ART RECONNECT」では、9月18日（日）のadidas Originals Flagship Store Harajukuの奥田栄希氏とのコラボ展示を皮切りに、9月21日（水）～9月28日（水）にピクセルアートコンテストで受賞ノミネートされた作品45名/50作品を渋谷ヒカリエ 8/ CUBEにて展示。期間中、最終審査が行われ、9月25日（日）15:00からの表彰式にて発表されます。なお、表彰式の風景は、YouTubeにて生配信されます。さらに、同日17:00から同施設内で、審査員、受賞ノミネートアーティスト、歴代受賞者などが交流するレセプションパーティ（招待制）を開催。これらの活動を通し、アーティストを支援し、ピクセルアート・コミュニティの活性化に寄与します。

【シブヤピクセルアートコンテスト2022 受賞ノミネート展示&審査員特別展示】

■場所：〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2丁目21-1 渋谷ヒカリエ 8階 8/ CUBE

■日時：2022年9月21日（水）～9月28日（水）の8日間 11:00～20:00

■入場：無料

■受賞者：受賞ノミネートアーティスト（45名 / 50作品）：

A rugon / anarrator / Art Man Oil / Biwamasu / cyanfish / DAWN MOONLES. / Dmitry Petyakin / Eto / guri / Ночь / Jptom / koh / MEI / micro_and / Mokuya / mol / Muscat / MYZY / otm / RuiRei / Sgam / Sykz / ywo46 / Zennyan / あらき / カワリカワリ(Meno) / くわぼん / こぐみ / こみちまめ / ジゼル愛華 / たかはし / にくまし / のいせ / ヒサシ / ヘルミッペ / マッハドッター / ミ'ω'ミウをのぞき / みか / みら 14号 / モモマン / ヤマ / るびなす / わもう / 高村檸檬 / 大魔王ロマ子 /

■審査員特別展示 参加者(8名 / 10作品)：

APO+ / eBoy / gnck / Joo Jaebum / onion (Nelson Wu) / Toyoya / waneella / 服部グラフィクス

■特別招致アーティスト：

ファミコン作品：奥田栄希 / ピクセル彫刻：Zerotaro

【シブヤピクセルアートコンテスト2022 表彰式】

■場所：〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2丁目21-1 渋谷ヒカリエ 8階 8/ COURT

■日時：2022年9月25日（日）15:00～16:30

■入場：受賞者ならびに関係者優先

■配信：公式YouTubeライブ配信

<https://www.youtube.com/watch?v=ssR9VIZg54s>

【シブヤピクセルアートコンテスト2022 レセプションパーティ】

■場所：〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2丁目21-1 渋谷ヒカリエ 8階 8/ CUBE

■日時：2022年9月25日（日）17:00～19:00

■入場：招待制

■プログラム構成：

前半 DJ: 大江戸テクニカ × VJ: ヘルミッペ

後半 DJ: Kyohei Fujita × VJ: m7kenji

【adidas Pixelated Store : adidas Originals Flagship Store Harajuku】

■場所：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5丁目17-4 神宮前トールス 地下1階

■日時：2022年9月18日（日）～ 9月30日（金）11:00～20:00

■アーティスト：奥田栄希

■入場：無料

※会期は予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

■主催・協賛・協力・後援について

主催：シブヤピクセルアート実行委員会

協賛：株式会社アカツキゲームス、アディダス ジャパン株式会社、WiCanvas、株式会社カワダ、東急株式会社、株式会社ワコム、株式会社WiseTech

協力：松竹株式会社、GIFMAGAZINE、Time Out Tokyo、Tokyo Otaku Mode、渋谷ヒカリエ、渋谷ヒカリエ Creative Space 8/

後援：一般財団法人 渋谷区観光協会、一般社団法人 渋谷未来デザイン

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野

TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアートコンテスト2022」の募集内容

【応募要項】

「シブヤ」「生まれて」「ゲームオーバー」「歌舞伎」「バナナ」のいずれかのテーマ、または、それらの組み合わせを「ピクセルアート」で表現。応募期間中、TwitterまたはInstagramで、「Shibuya Pixel Art」公式アカウントをフォローし、自身が制作したイラスト、アニメ、映像、彫刻、刺繍、写真、ゲームなどを「#shibuyapixelart2022」のハッシュタグと「作品タイトル」を付けて投稿。なお、Limited Pixel Art賞に応募される方は、16×16、32×32、64×64のいずれかのオリジナルサイズを明記してください。

【スケジュール】

一次審査：2022年8月8日（月）～8月18日（木）

受賞ノミネート展示：2022年9月21日（水）～9月28日（水）

最終審査＆表彰式：2022年9月25日（日）15:00～開催予定 ※全ての賞はここで発表されます。

【応募資格】

国籍 / 年齢・性別 / 社会人・学生 / 団体・個人 いずれも不問

【応募方法】

期間中、TwitterまたはInstagramで、「Shibuya Pixel Art」公式アカウントをフォローし、自身の「作品タイトル」と「#shibuyapixelart2022」のハッシュタグを付けて投稿。Limited Pixel Art賞に応募される方は、16×16、32×32、64×64のいずれかのオリジナルサイズを明記してください。

【審査員 全12名】

- ・株式会社スクウェア・エニックス CGデザイナー / アートディレクター 渋谷員子氏
- ・ピクセルアート・グループ eBoy
- ・アーティスト たかくらかずき氏
- ・「The Masters of Pixel Art book」著者 / ピクセルアーティスト ハンドルネーム"Prowler" Klas Benjaminsson氏
- ・「ピクセルアートではじめる背景の描き方」著者 / イラストレーター / ピクセルアーティスト APO+氏
- ・ピクセルアーティスト wanneella氏
- ・低解像度GIF作家 / Shibuya Pixel Art Contest 2019～2021の優秀賞受賞者 服部グラフィクス氏
- ・イラストレーター / ピクセルアーティスト / Shibuya Pixel Art Contest 2021 最優秀賞受賞 Nelson Wu氏
- ・映像作家 重田佑介氏
- ・ピクセルアーティスト Joo Jaebum氏
- ・評論家 gnck氏
- ・アニメーター / ピクセルアーティスト / Shibuya Pixel Art Contest 2021の優秀賞受賞者 Toyoya氏

【審査基準】

審査員が、特に重視するポイントは、以下3つの観点です。

- 独自性（Originality）・・・「ジブン」らしさや「個性」
 - 社会性（Sociality）・・・社会との「関係性」や社会に対する「問い」
 - 構成力（Story-telling）・・・与えられたテーマに対する「表現」、その鋭さや深さ、美しさ
- これら3つの観点から審査員が一番共感できた作品をそれぞれ選出します。

【賞品】

■**最優秀賞（1名）**：賞金30万円 / Wacom One 液晶ペンタブレット13 / 2022年9月以降に一部公開予定の『Shibuya Pixel Art Museum』にて受賞作品を展示＆紹介 / 2022年11月にスクランブル交差点Q FRONTの巨大サインで作品放映 / 「Shibuya Pixel Art Collection Book 2022」に掲載 / トロフィー

■**審査員賞（最大12名）**：ペンタブレット Wacom Intous / 2022年9月以降に一部公開予定の『Shibuya Pixel Art Museum』にて受賞作品を展示＆紹介 / 「Shibuya Pixel Art Collection Book 2022」に掲載 / トロフィー

■オーディエンス賞（1名）

賞金3万円 / ペンタブレット Wacom Intous / 2022年9月以降に一部公開予定の『Shibuya Pixel Art Museum』にて受賞作品を展示＆紹介 / 「Shibuya Pixel Art Collection Book 2022」に掲載 / トロフィー

■**特別賞（各1名）**：adidas Originals 特別賞 / 松竹「歌舞伎」特別賞 / 「ブレイク前夜」特別賞

■部門賞：

Limited Pixel Art賞（16×16、32×32、64×64で各1名）・・・制限された升目や少ない色数で、芸術性に富んだ作品。
Analog Pixel Art賞（1名）・・・デジタル表現に留まらず、アナログで、最も意外性に富んだ作品。
Beyond Pixel Art賞（1名）・・・表現手法に拘らず、「ピクセル」を再定義し、最も独創性に富んだ作品。

※特別賞及び部門賞は、審査員による審査に加え、協賛企業や協力団体とともに決定いたします。

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野
TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアートコンテスト2022」の審査員紹介とコメント

特別審査員：渋谷員子（Kazuko Shibuya）

ひとつの点から広がる世界。今年も皆さんのピクセルの可能性を楽しみにしています。



株式会社スクウェア・エニックス CGデザイナー / アートディレクター

旧スクウェア時代から現在のスクウェア・エニックスに至るまで「ファイナルファンタジー」や「ロマンシングサ・ガ」シリーズなど キャラクタードット絵やデザインを手掛けてきたグラフィックデザイナー FF1のオープニングシーンなど今なおプレイヤーの 記憶に印象深く刻まれている多数のグラフィックを担当し「ドットの匠」としてファンを魅了する。近年では「ファイナルファンタジー ピクセルリマスター」シリーズで全てのメインキャラクターをリマスタリングしている。

<https://twitter.com/Skazuko>

https://www.instagram.com/kazuko_shibuya/

特別審査員：eBoy

シブヤピクセルアートは、「ピクセルアート」の地位を上げる場所になりつつあります。私たちは、このイベントに参加できることを大変光栄に思います。そして、今年もこのコンテストに参加できることにワクワクしています。



ピクセルアート・グループ

eBoyは、カイ・フェルメール、シュテフェン・ザウアータイグ、スヴェント・シュミタルの3名からなるグループで、1997年にベルリンで結成された。アディダスやプレイステーション、ルノー、グーグルなど様々な企業と協業し、近年ではLouis Vuitton Travel Book日本版のアートワークや、2020年発売されたゆずのニューアルバム『YUZUTOWN』のジャケットビジュアルを手掛ける。eBoyを駆り立てる基本的なアイデアは、新しい「デジタルツール」や新しい「メディア」を使うこと。「画面」に直接作業することで、「ピクセル」を操る。モジュールのシステム環境が進化し、結果的に複雑なものがリッチなアートワークを生み出している。

<https://twitter.com/eBoyArts>

<https://hello.eboy.com/pool/everything/1>

特別審査員：たかくらかずき（Kazuki Takakura）

この10年でドット絵という表現技法をとりまく状況は大きく変化しました。ドット絵がノスタルジーと共に語られることがほとんどなくなったのは僕にとってとても嬉しいことです。『デジタルの最小単位を扱う唯一無二の技法』として、まだまだドット絵表現はたくさんの可能性を残しています。新たな表現に出会えるのが楽しみです。



アーティスト

3DCGやピクセルアニメーション、3Dプリント、VR、NFTなどのテクノロジーを使用し、東洋思想による現代美術のルール書き換えとデジタルデータの新たな価値追求をテーマに作品を制作している。現在はおもに日本仏教をコンセプトに作品制作を行う。京都芸術大学非常勤講師。openseaで仏像NFTシリーズ「NFT BUDDHA」を展開中。

<https://twitter.com/takakurakazuki>

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野

TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアートコンテスト2022」の審査員紹介とコメント

特別審査員：Klas Benjaminsson

素晴らしいシブヤピクセルアートコンテストで再び審査員として参加できることに興奮しています。これは、新進気鋭のピクセルアーティストに彼らの作品を披露する機会をつくる理想的なイベントです。



起業家 / ピクセルアーティスト ハンドルネーム "Prowler"

「The Masters of Pixel Art book」シリーズの作成者。ピクセルアーティストとして約25年活動。

<http://antialias.se/>

<https://twitter.com/masterspixelart>

<https://www.instagram.com/themastersofpixelart/>

<https://www.facebook.com/prowlergfx/>

特別審査員：APO+

今やピクセルアート(ドット絵)は、懐かしさ、ノスタルジーから解放されて新しい地位を獲得して始めています。新しいドット絵、言わばニューピクセルアートの黎明期と一緒に盛り上げて行ければと思っています。



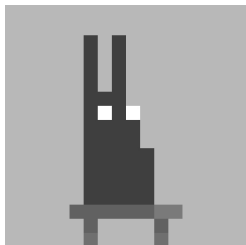
イラストレーター／ピクセルアーティスト

風景を中心とした独自の世界観を高解像度のドット絵で制作するアーティスト。MVや広告等、幅広く作品を提供。

https://twitter.com/APO_PLUS

特別審査員：waneella

私は、このコンテストのコンセプトがとても気に入っています。渋谷は人生のさまざまな側面をうまく映し出していると思います。このようなトピックを使えば、あなたが思うものは何でも見せることができます。自分がかつて応募したとき、アニメーションGIFとゲーム、短編アニメが同じカテゴリでまとめて審査されていたことに少し混乱しました。今もそうなのかわかりませんが、多分、それはもう関係ないかもしれません！



ピクセルアーティスト

主な方向性は、アニメーション化されたピクセルアートによる風景画です。近未来的で、日常的で、（新約聖書の）ヨハネ黙示録後の出来事をテーマにイラストを描きます。実績としては、Valve、Netflix、Nickelodeon、Cartoon Network、Deep Silver、Way Forwardなどがあります。

<https://twitter.com/waneella>

<https://www.youtube.com/c/waneella>

<https://www.instagram.com/waneella/>

<https://www.pixiv.net/en/users/6555095>

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野

TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアートコンテスト2022」の審査員紹介とコメント

特別審査員：服部グラフィクス（Hattori Graphics）

ピクセルアートは「画素で絵を描く」という明瞭なものでありながら今日様々な主義、手法が渦巻く坩堝であり、その混沌性は祭を祭たらしめる力です。ぜひ皆さんが考える「ピクセルアート」で祭に参加してください。社会に蔓延る閉塞感を、身の周りの漠然とした不安感を、せつかく出来てきたいムードを、一旦全てぶち壊しましょう。延髄をドットの角で殴りに来るような痛快な作品を楽しみにしています。



Hattori

低解像度GIF作家

1977年生まれ、神奈川県横須賀市出身、多摩美術大学プロダクトデザイン卒。ゲームグラフィッカーとして従事する傍ら低解像度GIF作家として活動。ドット絵=ピクセルアートをコンピュータゲームの枠を超えたデジタルネイティブの最も自由で原初的な画材と捉え最低限の画素数による新たな動画表現の可能性を模索する。

<https://twitter.com/hattori2000>

特別審査員：Nelson Wu (ONIONLABS)

私の希望は、今年ピクセルアートが別次元に変化するのを見ることです！



イラストレーター／ピクセルアーティスト／Shibuya Pixel Art Contest 2021 最優秀賞受賞

ネルソン・ウーは、ピクセルアートとイラストレーションを制作する中国系カナダ人アーティストです。オンタリオ州立芸術大学を卒業し、現在はゲーム&エンターテインメント業界で働いています。彼は、様々なイラストレーションやピクセルアート、アニメーションを生み出し、その多くが彼のアジアでの経験にインスパイヤーされたものとなっています。ノスタルジーとシュレアリズムの感覚は、彼の作品のテーマになっています。

https://twitter.com/instant_onion

<https://nelsonwu-art.format.com/>

特別審査員：重田佑介（Yusuke Shigeta）

ピクセルアートという領域において、傍流である自分がコンテストの審査をするということに心苦しさはありますが、私なりの視点で精一杯努めたいと思います。素敵な作品に出会えることを楽しみにしております。



映像作家

神奈川県在住、映像作家。驚き盤やゾートロープ、幻灯機など装置や仕組みを含めた広義なアニメーションへの興味からメディアアート領域で活動。複数のプロジェクターやモニターを使って、空間的にアニメーションを展開した体験型の作品を手掛けている。

<https://twitter.com/9e9eta>

<https://www.instagram.com/yusukeshigeta/>

<http://shigetayusuke.com/>

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野

TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアートコンテスト2022」の審査員紹介とコメント

特別審査員 : Joo Jaebum

このコンテストは、私が知る限りピクセルアートのコンテストのなかで最も大きいイベントだと思います。ここに参加できて大変光栄です。現在、ピクセルアートへの関心が世界的に大きくなっています。その中心にあるSHIBUYA PIXEL ARTは、長い間ピクセルアートを芸術の一つの分野として、大衆にアピールしてきました。そのおかげで、さまざまなスペクトラムのピクセル作品が誕生しています。このイベントを通して、どんな新しい未来が来るのかワクワクしますし、これからも、芸術とそれ以外の多くの分野で、ピクセルアートが活気付くことを願っています。そして、SHIBUYA PIXEL ARTをいつも応援しています。



ピクセルアーティスト

大学時代、アニメーションの制作を共にした友達が集まり設立した会社で、映像とグラフィックの仕事をしてきました。その時代にSNSを通して、pixelを使った個人製作の活動を広げ、初めて海外で作品関連のラプコールを受けることになりました。それ以降、フリーランスに転向し、多様なメディアチャンネルを通して、pixelartを紹介し、現在pixelartistとして活動しています。

2019年チャムシルロッテギャラリーでの個展をはじめ、国立現代美術館での展示とイベント、ソウル市公共美術プロジェクトに参加など、多くの活動を行なっています。その他、様々な分野の企業ブランド（Instagram、Google、GENTLE MONSTAR、NEXON、STARBUCKS、Dior、NIKEなど）と協業、YG ent.、SM ent.、AOMGなど国内外アーティスト達との共同製作を通して、昨今はNFTアート分野など多様な場で繊細なタッチを見ることができます。

<https://twitter.com/joojaebum>

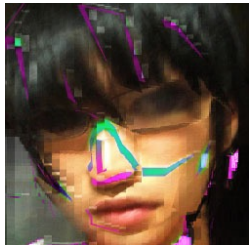
<https://www.instagram.com/joojaebum/>

<https://joojaebum.com/>

特別審査員 : gnck

<https://drive.google.com/file/d/1W7osrxFrdsniCNFmnmkjdh3PH3qUaf3/view?usp=sharing>

ドット絵の新たな美学を拡張していく作品を期待しています。



評論家

(ジーエスシーケイ)評論家。美術批評。キャラ・画像・インターネット研究。1988年東京生まれ。「画像の演算性の美学」を軸に、webイラストから現代美術まで研究する。美術手帖第15回芸術評論募集第一席。論考に「電子のメディアムの時代」ほか。

<http://gnck.net>

特別審査員 : Toyoya

https://drive.google.com/file/d/15HgQ7KukAui-j49EzC9WZfPf2n_Qa1Do/view

このイベントがより多様なピクセルと8ビットコミュニティを結びつけ、デザインやアートといった異なるスタイルを持つ作家がこのイベントに参加できることを願っています。また可能であるならば、ピクセルアーティストが全く異なるスタイルのアーティストとコラボレーションできればと思います。



アニメーター / ピクセルアーティスト

Toyoya(李帆)は、中国北京出身のアニメーター / ピクセルアーティストです。主に低解像度の作品を制作します。インディペンデントコミックの「peach boy」の作者で、サイエンスフィクション作品を通じて現実世界の自分なりの考察を描写しています。特に 80 年代から 90 年代にかけて作られたデジタルハードウェアを収集することが好きで、自身のピクセルアート制作にも大きく影響を与えています。

<https://twitter.com/toyoya8>

<https://www.instagram.com/toyoyali/>

<https://toyoyali.tumblr.com/>

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野

TEL : 03-6896-3611 / MAIL : shibuyapixelart@gmail.com

■「シブヤピクセルアート」とは

- ・2017年に産声をあげた「世界最大級のピクセルアートコンテスト&フェスティバル」です。ITバブル期の1990年代後半に「ビットバレー」と呼ばれた渋谷を舞台に毎年開催しています。
- ・過去5度のコンテストでは、プロアマ問わず様々な国・世代の方々にご参加いただき、ご応募いただいた作品総数は3,644点に及びます。
- ・TwitterやInstagramを活用したオープン形式のコンテストは世界中のピクセルアーティストやピクセルアートファンから注目を集めています。
- ・「街を舞台に、誰もが主役となり、実験を繰り返す」を理念に掲げ、コンテスト受賞作品や招致アーティストの作品を街にインストールすることで、公共関与とさせながらピクセルアートの可能性を探り、その発展と普及を目指して活動しています。
- ・2020年9月のコロナ禍に開催されたイベントでは、メイン会場となった渋谷ヒカリエと渋谷区公認の「バーチャル渋谷」にて作品が展示され、表彰式や特別展示を含め総勢1,000名以上が来場し、ピクセルアート作品に触れていただける貴重な機会となっています。
- ・2021年9月の緊急事態宣言下で開催されたイベントでは、国民的アーティストゆずとの特別企画展や渋谷にあるアディダス旗艦店3カ所でコラボ展示を実施し、感染対策を講じながらも総勢2,500名以上のお客様が来場し、多様なピクセルアート作品を鑑賞いただきました。
- ・こうした活動は、コンテストがピクセルアーティストの登竜門になるだけでなく、アディダスやシュウ・ウエムラ、メディコム・トイ、ゆずなど、国内外の有名ブランドやアーティストとのコラボレーションのきっかけとなり、ピクセルアーティストの「自信」や「モチベーション」につながっています。

■「SHIBUYA PIXEL ART」の歴史

2017年7月

ピクセルアートの試験的なイベントとして、渋谷LOFTや西武渋谷など、渋谷駅周辺13カ所で展開。期間中、SNSを活用した世界初のピクセルアートコンテストに200名以上が参加。ナノブロック®で制作するハチ公の映像が13.4万回以上再生され話題に。東京新聞朝刊「東京発」にメインビジュアルが掲載される

2018年3月

第2回目となるシブヤピクセルアートコンテストを開催。コアなピクセルアーティストを中心に281作品が集まる

2018年6月

LINE株式会社とピクセルスタンプコンテストを開催。最優秀作品が「斜めドット」として5,715件リツイートされTwitter上で炎上。「ピクセルアートとは何か?」「ピクセルアートの定義とは一体何か?」と論争を巻き起こす

2018年7月

シブヤピクセルアート2018をキャットストリート沿いにて開催。発売40周年を迎えた「スペースインベーダー」とコラボし、観客動員数4,780名を記録。ピクセルアーティストZennyan氏の呼びかけにより「ピクセルアート」座談会を実施。熱狂的な参加者との議論は4時間にも及ぶ

2019年2月

第3回目となるシブヤピクセルアートコンテストを開催。世界中から895作品が集まる。「Limited Pixel Art賞」「Analog Pixel Art賞」「Beyond Pixel Art賞」の部門賞が新たに設置。7歳の最年少受賞者を生む

2019年6月

シブヤピクセルアートコンテストの受賞作品が、「Shibuya Pixel Art Graffiti」として渋谷駅周辺約100カ所に展開される

2019年9月

シブヤピクセルアート2019を渋谷キャストで開催。「現代の妖怪」をテーマにしたピクセルアートの企画展や「ピクセルアートとブロックチェーンの可能性」などをテーマにしたトークショーも実施。青空の下、ピクセルアートブースでの物販などに総勢26名のピクセルアーティストが参加し、観客動員23,000名を記録する

2019年11月

ヨーロッパ最大の公共放送「EURO NEWS」から取材を受ける。渋谷まちびらきや渋谷パルコのアートワークにピクセルアーティストが次々参画する

2020年5月

新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言下で、第4回目のシブヤピクセルアートコンテストを開催。ピクセルアート界のレジェンド、eBoyが初の外国人審査員となり、682作品が集まる。デビューわずか数ヶ月のピクセルアーティストmae氏のアニメーション作品が最優秀賞に輝く

2020年7月

NHK Eテレの「沼にハマってきいてみた」という番組で「ピクセルアート」が特集され、シブヤピクセルアートが地上波で初めて紹介される

2020年9月

シブヤピクセルアート2020を渋谷ヒカリエとバーチャル渋谷でオンライン&オフライン開催。コロナ禍の開催にも関わらず、受賞展示や表彰式、重田佑介氏とZennyan氏の特別展示「Temperature of Pixel」に総勢1,000名以上が来場する

2021年9月

5周年を迎えたシブヤピクセルアートは、コロナ禍の人々に寄り添い「Reboot」をテーマに開催。第5回目のピクセルアートコンテストでは、コンテスト初となるカナダ人アーティストが最優秀賞に輝く。イベントでは、国民的アーティストゆずとの特別企画展「YUZUTOWN Special Exhibition」や渋谷にあるadidas 旗艦店3箇所にて作品を展示し、総勢2,500名以上が来場する

【本件に関するお問い合わせ先】

シブヤピクセルアート実行委員会 担当：坂口・川勝・小野
TEL：03-6896-3611 / MAIL：shibuyapixelart@gmail.com